

---

# クロピカと私

るうと

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

クロピカと私

### 【Nコード】

N1398N

### 【作者名】

るうと

### 【あらすじ】

私とヤツとの人生の遭遇率は高い。それもヤツが現れると特典でいつも不幸が付いてくる。ヤツは世間ではゴキリと呼ばれている。恐ろしくて私はクロピカと呼んでいる。黒くてピカピカしてるからだ。ピカ ユウみたいで可愛いから付けたんじゃないんだかね！腐女子の主人公のラブコメディー？何気に主人公モテます。

## 1話：クロピカ、宝の山を発見する

「お前って、腐女子じゃん？」

休日の朝、清々しい太陽の光を浴びて、リビングに起きてきた私に向かつて兄に言われた言葉。(。。(。ゴルア！朝の始まりはオハヨウでしょうが！幼稚園からやり直してきなさい！って、今って言った？

「え？すみません、何て言いました？」

俄かに信じられない言葉を兄から聞き、つい敬語になってしまう私。落ち着け私、興奮したら負けだ。

「この漫画さ、女友達が萌えるって言ってただけどさあ、興味ないって言うてんのに、読めってうるさくてさ」

おいおい、私の言葉を完全スルーかよ。それも何気に女の自慢だよ。

つつか、『その話長いの？』（京急：テレパシー篇のCMより抜粋）

「ってことで、腐女子のお前の意見も聞きたいわけ。」

「(。。(。。(。ブッ」

つい吹きだしちゃう、お茶目な私。ココは萌えポイントと思ってくださいませ、ご主人様 つか何で、私が腐女子って兄が知ってるの。とても怖いんですけど。つつか女との交流に私を巻き込むな  
「おほほほつ、お兄様ったら可笑しな方！私は腐女子なんかじゃなくってよ！」

見事なフットワークで攻撃をかわす私。

「何その喋り方。お前の方がオカシいわ。」

見事なブリザードの反撃を繰り出す兄。中々ダメージは大きいけれど、ホイミで頑張るお！わ、私負けないもん！！

「そんな漫画、自分で読んで妹に頼むなっていうんですよ。」

「そんな漫画って、これお前の部屋にもあるじゃん。」

（#。。）ゝヒ

八

！！！！

だから、なんでそんな事知ってんのよ。つつか、え？兄、私の部屋に入っ…え？w

「おおおおう、お主、私の聖域に入ってはなかるうな？」

「精液？」

「セ・イ・イ・キ！！このオタンコナス！！」

「うるせえなあ、どっちでも良いよ」

良くない、良くないぞ青年！！私の印象が大きく変わるジャマイカ！！ガクガク（（；。）。）ブルブル！今時の子って何でこんなに恐ろしい程、世の中どうでも良いですゝダルイですゝってオーラだすのだろうか！！何の意味もない！あ、自然と小島よしおネタしちまったよ。オツパピー。

「で？この漫画萌えんの？」

「萌えます。」

って（艸、\*）うあゝうあゝあゝ！！！！何正直に言っちゃってるの、バカ！私のアルパカッ！！でも、この漫画を嘘でも萌えないなんて言えません、言えませんww

「そか、じゃあ読んでみるかな。」

とうとう、兄もこちらの世界に踏み出した様です。妹はぜひ、兄にはリアルに彼氏を作ってほしいと願っているお。最初は二次元から始めてみるんですね？わかります。

「あ、さっきお前の部屋にゴキブリいたよ。」

「その名を口に出しちゃいけません。黒くて光る物体、通称クロピカと呼びなさい。」

「殺そうと追っかけてベッド下めくったら、色々あってビックリしたわ。」

そうですね、ベッド下は見ちゃダメって思春期の男の子を持つ親子さんには、良く聞かせておいてあげて…って、え。

「お前、よくあんな漫画買えるな。尊敬するわ。」

あはは、クロピカ追いかけたら宝の山でしたか、そうですか。

＼（＾o＾）／オワタw

腐女子視点から読むと、萌え要素ぎっしりの漫画を持ち、軽やかに自分の部屋に戻っていく兄を見ながら、私は次の漫画の隠し場所に頭を悩ませるのであった。

## 2話：クロピカの城、名は学校

私の今通っている高校は、もともとは男子校だった。

一昨年に共学となったが、今でも女子と男子の比率は2：8。

そうですね、そうですね、萌え要素ぎっしりなんです。

ちなみに、クラスにはなるべく女子が集められ最低2人はいる。

逆に言うと、男子しかいないクラスもあり、私は秘密の花園と呼んでいる。

「おはよ、かのん。」

「おはよう、チカちゃん！」

申し遅れました、私「菊池かのん」と言います。高校2年生やっています。

この子はチカちゃん。私と同じクラスの女の子です。え？この子も腐女子かって？

いやいや、チカちゃんは普通に10ヶ月目のラブラブな彼氏様がいて、腐ってません。

今が旬です。（え　でも、チカちゃんは私が腐ってるのを知ってます。

なんでって？それは、普通に私がバラしたからだよ、ワトソン君（？）。

私はホモが嫌いな女子なんていない！をモットーに生きていますからね！

きつと何処か深い所で分かりあえると信じているのだよ。

チカちゃんの彼氏様とのノロケ話を聞きながら教室に到着！

席はチカちゃんが教卓の前の列から3番目で、私は窓側の一番後

ろ

この席は、クラス皆をウォッチングしやすく妄想を掻き立てるベストポジションなのだ！

私のくじ運グッジョブ！（。。。）

席に着くと、私の隣の席「鹿野君」がいた。

今日も朝来るのが早い。そして、今日もとても可愛らしい。

「シカちゃん、おはよ！」

「おはよ菊池。ちゃん付けはやめてよ。」

シカちゃんはこの男子が多い学校で珍しく、女の子みたいに可愛い。

私の脳内では、シカちゃんっは受けてモテまくりなのだが

本人はちよつと受け役を嫌がっている。しかし、彼女はいないというデータがあるので

私の中で、シカちゃんは絶賛受け役である。

「だって、シカちゃん可愛いんだもん。」

「…男に可愛い褒め言葉じゃないよ。」

と言いながら、頬を染めるシカちゃんは可愛いく、

私が男だったらきつと色々としカちゃんは濃い人生を歩んだだろう。残念だ。

しかし、一番残念なのは私の学校にクロピカが大量発生していることである。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1398n/>

---

クロピカと私

2011年3月5日11時32分発行